

御諱也、

〔續日本紀^{孝謙}〕天平寶字二年六月乙丑、大和國葛上郡人從八位上桑原史年足等、男女九十六人、近江國神埼郡人正八位下桑原史人勝等、男女一千一百五十五人、同言曰、伏奉去天平勝寶九歲五月二十六日勅書、稱內大臣^{藤原}太政大臣^{鎌足}之名、不得稱者、^中望請依勅一改史字、因蒙同姓、於是桑原史、大友桑原史、大友史、大友部史、桑原史、戶史、戶六史、同賜桑原直姓、船史、船直姓、

〔續日本後紀^{仁明}〕承和二年正月己巳、左京人右馬寮權大允清友宿禰真岡散位同姓魚引等、賜姓等

品宿禰、非其願也、公家避贈太政大臣橋氏之名、^{仁明}母后橋^{嘉智}子父清友耳、

〔大鏡^三太政大臣實賴〕これたゞひらのおとゞの一男におはします、小野宮のおとゞと申き、^中おとゞの御わらはなをばうしかひと申き、さればその御ぞうは、うしかひをばうしつきこのたまふ也、

ふ也、

〔神皇正統記一條〕攝政^兼藤原病により、嫡子内大臣道隆にゆづりて出家、猶准三宮の宣をかうぶ

らる、執政の人出家のはじめなり、そのころ出家の人なりしは、^新發さぞいひける、

〔陸奥話記〕賴義朝臣、^中拜爲陸奥守兼鎮守府將軍、令討賴良、^中俄有天下大赦、賴良大喜、改名稱

賴時、^同太守名、有委身歸服、

〔中右記〕天永三年十一月十六日己巳、爲隆談云、後二條殿^{藤原}師通、御時、被作印之時、御名上字、依可被

用、被作師字、而大殿^{藤原}師實、上字、又師字也、同字可有憚歎、如何被尋申處、大殿御返事云、全不可有憚

只可被用師字也、昔被用先祖印常事也、以之思之、同字不可有憚者、此事尤有興、仍所記置也、

〔康富記〕應永八年五月十二日庚子、今日右大辨高橋秀職出家、^中子息大學助範職、本名光職、二條

殿^基、御名字讀故改之、

〔薩戒記〕應永卅三年十月十七日丁丑、依當番、自早旦參候院、^中貫主羽林被示合予、^{中山}云、三條